

♪へぎし……♪

(きしむ床の音)

リリウ

「あは……えへ、はあー♪
いっぱい、出して……貰っちゃいました、えへへ♪

貴方の罪……懺悔を、私の体でちゃんと、受け止めきましたよね?
ふふふ♪」

♪へぎし……くちゅ♪

(きしむ床の音、触って濡れ具合を確かめる音)

リリウ

「あんっ♪ ほら、見てください♪

こんなに、私のココ。貴方を受け止めた女の子場所……おまんこ♪

貴方の懺悔をいっぱい受け止めたって、白くてどろどろの貴方の罪でぐちゅぐちゅになつてます♪
えへ♪ こうして、ちょっと広げてみるだけで……んっ♪

ふふ……とろおーって、貴方の罪、零れちゃいそうです……んうっ♪」

リリウ

「ふうー……んんっ♪ ご満足、頂けましたか?

貴方がこんなにも出して下さる程、私に懺悔をして良かつたと思つて下さつてるなら、とても嬉しいのですけれど……」

リリウ

「……もし、後悔をしていらっしやるようならば、申し訳ありません。

私ばかりが、嬉しくなつていてるだけなのかもしません……あはは。

でも、私は……貴方に懺悔をシて頂けて、すごく……本当に、感謝していますよ?

自分勝手で、申し訳ありませんが……えへへ」

リリウ

「私は、皆に見習いだから懺悔の相手はまだ早いと……せがんでもずっとダメだと言わされてきました。

どれだけこうして誰かの罪を……辛さを、受け止める事をしたいと望んでも。認めて貰えないやるせなさが、ずっと胸の内にあつたので。

……貴方のお陰です。

今日、貴方が私を選んでくださつて……懺悔が出来て、とても……誇らしい気持ちでいっぱいなんです♪」

リリウ

「ですから、懺悔をして罪の気持ちを軽くすべき貴方よりも、私の気持ちが軽くなつてしまつてるというのは大変あべこべな話ではあるのですが。

その……はい、感謝しております。

貴方と、こうして一夜を共に出来て……私、本当に嬉しいんです！」

✧しゅる……✧

(体を動かす衣擦れの音)

リリウ

「これで、私も懺悔を経験した訳ですから、今までダメと言つてた神父様やシスター達を説得できます！今後は、私も一人でも多くの方の迷い、悩み、苦しみを、懺悔として受け止めてみせますっ！」

✧しゅる……✧

(リリウの言葉に、思わず体が動いてしまう音)

リリウ

「って、あれ？……あ、あの、どうかされましたか？
お顔が陥しくなられたような……何か、気に障る事を言つてしましましたか？
あう……ご気分を害されてしまったのなら、申し訳ありません。
ああ！ そんな困ったような顔をされないで下さい！
すみません、謝りたいのですけれど……何が気に障ったのかが分からなくて……。
えっと、ど、ど、どうしたら宜しいでしょうか！？」

✧……ぱし✧

(手を握る音)

リリウ

「はえ？ ど、どうされたのですか？」

突然、手など握られて……え？」

リリウ

「あつ……え？ あの、その……あう。

……私が、他の男性の方と、懺悔をするのが……気に、なられたんです、か？」

リリウ

「そんな事言われても、困つて……しまいます。

私、シスターですので……皆さんの懺悔を聞くのは、私の望みでもありますし。
お気持ちちは嬉しい……嬉しいんで、しょうか、私は？ ……あう」

✧しゅる……✧

(再び手を握る音)

リリウ

「……うう。

そんなに、何度も手を……握らないで、下さい。

こんなに求めて……気に入つて頂けているのは、その……本心から、嬉しくはあるんです。

あるんですけど……む、う」

『しゅる……』

(体を動かす音)

リリウ

「……自分で言うのはおこがましいとは思うのですが。
多分、今私は……嫉妬を、して……頂けているんですよ、ね?
……あう。

嫉妬も、神の教えに従うのであれば大きな罪の1つなのですが……何故でしよう。
どうしてか、むず痒くて、嬉しいような気持ちも……してしまいます」

リリウ

「私は、シスターです……見習いではありますけど。

ですから、神の教えを……宗派（しゅうは）によつて解釈は違いますが、人が罪を貯め込み、それを……懺悔と
してお聞きし。

溜め込んだ罪を吐き出して貰うのは尊く（とうとく）聖なる行為である、という私の所属する教会の教えを信じ
ています。

それに……孤児であつた私を拾つて育てて頂いたという、返しきれないような大きな恩を感じています」

リリウ

「ですから、他のシスター達がそうしているように、成長を認めて頂いた後は……懺悔をお聞きし、人の悩みを
解消し、救つて差し上げられるのは……長年の私の夢でもあるんです。

貴方には心から感謝しております、けれど……貴方のそのお願いを、お聞きする訳にはいかないんです。
……ごめんなさい」

『しゅり……』

(頭を下げる音)

リリウ

「……ですが、貴方の気持ちを嬉しいと。

いけない事だとは思つてゐるのに……そう感じてしまつてゐるのも、事実です。
こんな風に誰から求めて頂ける経験を、した事がないからかもしれません……。

懺悔を通じて、貴方にこんなにも思つて頂けるようになつたという事を、とても……嬉しく、感じてしまつてい
るんだと思ひます」

『しゅる……ぎゅ』

(リリウから手を握り返す音)

リリウ

「ですから、その……一つ、ご提案があります。

こういう言い方は失礼ではありますが、嫉妬を抱いたのは……貴方の罪、と言えます。

同時に貴方に嫉妬を抱かせてしまったのは……私の罪と言えます。ですので……最後に、もう一度。お互ひの罪を清らすため、鐵毎

卷之三

(リリウが体を近づける音)

リリウ

貴方とぞの、特別

貴方の、かにの 特別な 情緒で、
私の、初めての相手である……貴方。

そして、溜め込んだ思いを……熱くて白く

貴方

愛し合う、ただの男女。婚姻（こんいん）を結んだ夫婦であるかのように……共に、交じり合う（まじりあう）懺悔を……致しません、か？

他の誰にもしないと約束する、貴方とだけの、懺悔。……如何、でしよう？

（どきりと反応する音）

リリウ

僭越（せんえつ）ではありますが、貴方に私を愛して頂いていて、私も……貴方を愛している。お互いに愛し合っていると思いながら……嫉妬など入り込む隙もないほど、相手を愛おしく（いとおしく）思いながら……交じり合う、というもので。

……私の、初めてを捧げた、貴方。

私は懺悔をする機会と……勇気を下さった 貴方特別で、愛おしい（いとおしい）……貴方にだけする、懺悔です。

お受け、頂けます、か？」

（興奮で反応する音）
↖・・・・びくんっ！▼

リリウ

まだ、少々複雑そうな顔をされて、ハツハツと笑ひますね。

えへへ……喜んで頂けたんでしょうか？おちんちん……反応されましたね、ふふ♪
それなら、はい……喜んで、お相手させて頂きます♪」

❖しゅる……』

(一度体を離す音)

リリウ

「嫉妬すら入り込めない程、罪なんて……忘れてしまったくらい。
お互いの滴る（したたる）液を混じり合わせ、熱を感じたい、心を捧げて……離れがたいと思うくらいに。

旦那様……♪

愛しい夫婦として、まぐわい……愛し合い、ましょう？」

へくちゅ……くぱあ♪』

(リリウが自分から秘所を開き、誘う音)

リリウ

「はあー……、んっ♪

さあ……えへへ、旦那様♪

先程精液を出して下さった私のアソコ……おまんこ♪
まだ、もつと……旦那様のが欲しいって、くちゅくちゅ、ぐちゅぐちゅ……濡れて、欲しがっちゃつてますよ？
ちよつと広げるだけで……こんなに零れてしまつて、折角とろとろにして頂いたのに、悲しくて……寂しがつて
います。

……旦那様？

もう一度……ここに挿れて下さいますか？

挿れて、射精して……今度はもう零れないよう、旦那様のモノで、ぎゅつて……塞いで、下さいますか？」

へぎゅつ……がばつ！ずぶうつ！『

(思わず押し掛かり挿入する音)

リリウ

「んんうつ、あつ、んんっ♪

あつ、んつ♪ も、お……そんな、急に压（の）しかからないで下さい、旦那様あ♪

そんなに焦ら（あせら）なくとも、私はここにいますよ？ ふふ♪』

リリウ

「んつ、んう……あんっ♪ ふふ♪

あは……さつきまで、あんなに……愛して貰っていたから、ふふ♪

全然……痛く、ありません♪ んつ、あつんうつ♪』

リリウ

「んつ、んう……あんっ♪ ふふ♪

嬉しいです……旦那様の、私のお腹の中で……ふつくり膨らみながら、ぐふ、ぐふって擦つてくれる……んん
つ♪

えへ、ふふ♪ おちんちんが、旦那様の事がここにいる一つ……いっぱい教えてくれて、とても心が……ボカ
ボカします♪

あつ、う……あんつ♪　えへへ……嬉しい♪

《ぐつ……ちゅうつ》

(キス音)

リリウ

「んっ！？……ちゅう、じゅる、んんう……ちゅつ、ちゅつ、じゅる、くちゅ……んっ、んんう……じゅる♪
んふ、ふはあつ！　も、もお……また、急にキス♪

突然キスされると、吃驚(びっくり)するじゃないですか。ん、もう♪」

リリウ

「はあ、んっ……ちゅう、じゅる……ん、ふつ……んっ♪

あんっ、ふふ……えへへえ♪　上も、下も……旦那様が、入ってきてるみたい……です♪

あんっ、んっ、うん、んっ、んんうっ♪

あは♪　こんなの、体の中……旦那様で繋がっちゃった、みたい、です……よ？　ふふふ♪

リリウ

「んう♪　……ん？　……あは♪
いいえ、嫌じゃありませんっ♪

吃驚しただけですから……キスして頂ける事自体は、胸がポカポカして、愛おしくて……んっ♪」

リリウ

「んっ、あむっ、ちゅう……れろ、じゅる、ちゅう……んっ、じゅる、んんうっ♪
くちゅ、れろ、じゅる……じゅる、れろ、ちゅつ、ちゅつ、ちゅう……んんっ♪

ぶはあっ♪　……えへへえ♪　ほら、全然嫌がってませんよ♪

んふふ……むしろ、旦那様をいっぱい感じられて……上のお口も、下の……お口も♪

全部、熱くほぐして貰えてる感じがして……うふふ♪　とつてもドキドキして、頭がふわふわして……嬉しくな
つてます♪」

《ぎし……ぱんぱんっ！》

(ピストンの強まる音)

リリウ

「んふ、んっ、んつ、んう……あ、んうっ♪

や、あ……んんっ♪　熱いのぉ……旦那様のぉ、体の奥でぐりつて……触つて、きた……んんっ♪

旦那様が出した、残つてる精液を……擦り、つけてくる……みたいにい、んんうっ♪」

リリウ

「あう、んつ、あつ、あつ、あつ、あんっつ♪

ぐり、ぐり……ぐりぐりい♪　腰、押し付けてえ……中あ、押し広げられてえ……ますうっ♪

また、いっぱいになつてちやつてるう……旦那様のでえ、私の……おまんこおつ♪

ぐちゅ、ぐり……いっぱい、いっぱいになつて……液が垂れて、喜んで、るの……分かつちやい、ますっ♪ 分

からせられちゃって、ますっ♪

あはつ、あんつ♪ あつあつ、あつ、あんつ、あつ、んうつ、ああ、んんうつ♪♪

リリウ
「はあー、あー……んつ♪

旦那様あ、だんなさまあ……わがままあ、我儘言つて、いいです……かあ？
キスう……もう一度キスして、欲しいんです……んうつ♪

愛しい、アナタを……もつといっぱい、体中で感じながら……んうつ♪
私……頭、真っ白に、なりたい……んつ、で……すうつ♪♪

リリウ
「んつ、じゅる……んんうつ、あんつ、んんつ、ちゅうつ♪

ぶはあ♪ うれ、し……アナタあ♪ あんつ、ちゅう、じゅる……んんつ、ちゅう、じゅる……ん一つ♪
キスう……キス、します♪ んつ、あんつ、んつ、んつ♪

アナタのお、唇の柔らかさを……歯の形を、絡んでくれるう……舌の感触をお♪
あむつ、じゅる、ちゅつ、ちゅつ、んう、れろ……ちゅう、れろ、じゅる、ちゅうつ、ちゅつ♪

んつ、はあ一つ♪ 全部、感じられます……んんうつ♪ しあ、わせ……あ、はあ♪ あんうつ♪♪

リリウ

「あつ、あつ……白く、白くなつちや……キちゃ、キちゃう……キちゃいますっ♪
んう……ちゅうつ♪ はあー……アナタあ、アナタあ♪
すきい……好きい♪ 大好き、大好きですよお……愛しい（いとしい）、アナタあ♪
あんつ、あつ、んつ……うん、ああつ♪」

△ぎゅつ△

（顔を近づけ、抱き着くようになる音）

リリウ

「おねが……い、です♪

一緒に……一緒に、イつて……イつて、くださ……い♪
愛しい、アナタと……私、一緒に、イきた……いつ♪
アナタあ、ねえ？ おねがいです……私と一緒に、イつて……イ……つてえ……つつ♪♪

リリウ

「あう、んつ……や、あ♪
キちや、白いの……キ、ちや……あつ、んつ……んつ！
んんうう、あああああああああああああつつつつ♪♪♪♪

△びゅくつ、どくつ！…△

（射精音）

リリウ

リリウ

ふうー……んんう♪

お腹あ、ふくつて……アナタの、精液が……たぶたぶ、溜まつて……ふくつて、しちやつてます。あは♪ んふ……んー……ふうー♪」

リリウ

「えへへへへはあ」

すぐ、いっぱい……アナタを感じちゃいました♪
えへへへ♪ ありがとうございます……アナタあ♪
ふー……んんうつ♪

リリウ

「今、私がどんなに……満たされて、幸せか……ふふ♪
アナタに、分かるといいんですけど……。

うしのひにかくはいふる

(体を動かし、横向きに向かい合う音)

リリウ

嫉妬なんか、入り込め

私ばかり、幸せになつてしまつたのでなければ、いいのですけれど……同じ思いなつて、下さいましたか？

愛しい……愛しい
アナタ?

《しゆる……ちゅつ》

彦を送り
再びのこの音

リリウ

……ふふ♪ キスって、いいですね♪

今、幸せだつて、とつても伝わりますから♪
ふふ♪ もう1度キス、して下さい♪
んつ……ちゅうつ♪ んつ……えへへ♪
んつ……ちゅうつ♪ んつ……えへへ♪